

とちぶん会報

No.57

2019年10月5日

栃木県文芸家協会 発行人 小林 守城
事務局／栃木県下都賀郡壬生町中央町16-18 三上博史 方
〒321-0226 TEL090-9318-2492

10月29日～30日に秋の懇親旅行(南平台温泉ホテル)

今年度の事業計画にあるとおり、秋の懇親旅行を実施します。平成27年9月以来4年ぶりとなりますので、会員の皆さん、奮ってご参加ください。

10月29日(火)～30日(水)の1泊2日、お芝居観賞、名所めぐり、温泉ホテルでの宴会などがある企画です。栃木県那珂川町にある「南平台温泉ホテル」に宿泊し、温泉に浸って英気を養います。この機会に会員相互の親睦を深め合い、互いの創作意欲への刺激になる語らいを存分にしてみましょう。文芸家としての新しい自分が発見できる旅になるかもしれません。

日程については、初日はホテルにある「みなみ座」でのお芝居観賞、宴会・二次会などがあります、二日目は大田原市の名刹「雲巖寺」・「大雄寺」への参拝、「広重美術館」の見学などを予定しています。ものを書く上でヒントが何か見つけられるかもしれません。

温泉入浴は、同ホテルの展望露天風呂などに2日間満足するまで浸っていただけます。

また、同ホテル1階ロビーには「栃木県文芸家協会作家著書コーナー(とちぶんライブラリー)」が開設されています。この機会に、是非ご覧になるよう案内します。会員の活動を改めて認識することができるでしょう。

会員におかれましては、同封した「秋の懇親旅行の案内」を必ずご覧になり、この機会を逃さないで是非とも申し込んでください。最少催行人員は10名、定員は15名とします。申込み締切日は特に設けていませんが、なるべく早めにお問い合わせいたします。

もっと詳しいことを知りたい場合は、事務局までお問い合わせください。

夏季講演会、暑気払い・懇親会を開催

前号で会員に案内しました本年度の夏季講演会は、講師に高杉治憲当協会副会長をお迎えし、8月18日(日)ホテル丸治において開催されました。非会員も含めて35名の出席がありました。

演題は「負に導かれ 生かされて」で、高杉先生の波瀾に富んだ会社経営・再建のお話をたっぷり聴講しました。お話しされた内容は、先生の書かれた数々の小説・随筆作品に反映されており、是非お読みになることをお奨めいたします。

講演会終了後の暑気払いを兼ねた懇親会には23名が参加しました。はじめに新会員や現会員の自己紹介があり、和やかな雰囲気の中で会食がなされました。歓談の方も盛り上がり、会員相互の親睦がさらに図られました。

来年もまた同じ時期に講演会・暑気払いを予定しています。ご承知おきください。

第2回編集会議を開催・『朝明』第8号は編集へ

朝明第8号の原稿提出は9月末日に締め切り、総数100編(前号は88編)の作品が集まりました。各部門の提出数は以下のとおりです。()内の数字は前号のもの。

- ・創作(小説) 10編(7) ・評論 2編(3) ・随筆 16編(13) ・詩 10編(10)
- ・短歌 20編(20) ・俳句 5編(1) ・川柳 7編(6)
- ・特集「令和一捨てられるもの捨てられないもの」30編(28、テーマは「ターニングポイント」)

10月3日(木)に第2回編集会議が開催され、各部門の編集委員による原稿確認・編集作業が行われました。表紙デザイン(竹工芸作品)については、次回に候補作品を提示して選定することとなりました。次回の第3回編集会議は、11月12日(火)を予定しています。

とちぶんライブラリーを南平台温泉ホテルに開設

栃木県的那須馬頭温泉郷にある南平台温泉ホテル(栃木県那珂川町)の施設内に「栃木県文芸家協会作家著書コーナー(とちぶんライブラリー)」が開設されました。

当協会会員が著作した作品で協会に寄贈されたものについては、とちぶん会報及び協会ホームページのお知らせ欄で随時紹介しておりますが、このたび同ホテル(社長の篠原暢宏氏は当協会の高杉治憲副会長)のご厚意により、1階ロビーの書籍コーナー内に「栃木県文芸家協会作家著書コーナー(とちぶんライブラリー)」を設けていただき、同ホテルご来客の方への閲覧に供することとなりました。会員が執筆した作品が広く読まれることを願っております。

最後に、会員が著作物を発行した場合には、協会規約第6条にあるとおり、その1部を協会に寄贈することとし、事務局へお送りくださるよう、改めて周知いたします。会員の協力で「とちぶんライブラリー」を充実させていきましょう。

『創作への志』 会員通信 No.15 随筆部門 松林 厚子

子育て真っ最中の30代の頃、初めてエッセイ講座に参加した。講座は託児付きで、二歳になったばかりの息子を保育室に預けて授業を受けた。講師は栃木県文芸家協会前会長の故松本富生先生で、先生は「よい文章を書くためには、本をたくさん読んでください。何よりも書き続けることが大切です」と力説した。

講座終了後に、何人かの受講生とともに、先生に勧められたエッセイサークルに入った。それ以来、身の回りで起きたことを文章にまとめている。

書くことは孤独だけれど、書くことでたくさんの人と出会えた。これからも本を読んで、文章を綴っていききたい。

§ 寄贈書籍の紹介 §

○「栃木県現代詩年鑑 2019年版」／発行所・栃木県現代詩人会／発行日・2019年6月30日[同会からの寄贈]

- ・栃木県現代詩人会会員36名の参加を得て、会員の1年間の成果を集約したもの。当協会会員4名が作品を載せている。

§ 新会員紹介 §

- ・俳句部門 石井 光[下野市]、吉田 良二[宇都宮市]
- ・小説部門 徳永 楽遥[宇都宮市]

* ∞ * 事務局通信 * ∞ *

朝明第8号の原稿が提出されました。これから編集作業の本格的な開始となります。発刊まで何とか無事に辿り着くよう頑張らなければなりません。会員及び編集委員のご協力をお願いいたします。

秋の懇親旅行は、利用する南平台温泉ホテルからのご厚意により破格の料金でサービス提供されています。久しぶりの企画、行かなきゃ損の旅行です。皆さん奮って参加してください。

協会ホームページの反響は徐々に表れています。Facebookの運用にも少しずつ慣れてきました。インターネットは既に地球を丸ごと包んでいます。最大限に活用していきましょう。会員数が再び100名の大台に近づく入会申込みが続きました。協会の安定的な運営に向けて広報強化を一步ずつ着実に進めていきましょう。

詩部門会員の神長昭治さんが今年度第73回栃木県芸術祭書道部門において、見事に芸術祭賞(雅号 神長雪華)を受賞いたしました。おめでとうございます。今後の更なるご活躍を祈念いたします。(三上)